

WHO安全な手術のためのガイドライン2009

安全な手術が命を救う

手術安全チェックリストの使用の推奨

「あなたの手術室では、
WHO手術安全チェックリストを
使用していますか？」



手術医療の質の向上を推進するためにも、患者の安全・安楽を保障することは重要なことです。

手術室内での医療事故は患者の生命も脅かしかねません。このような事故の原因として、不明確な手順、コミュニケーション不足、表示間違い、確認不足、準備不足、不適切な対応、マンパワー不足などさまざまなことがあるとされています。

世界保健機構は、「安全な手術が命を救う」というプログラムで、世界中の手術死亡の数を減少させる取り組みに着手してきました。その結果、「WHO患者安全」は、世界中の外科医、麻酔科医、看護師、患者安全専門職と患者との相談を通して、患者安全に必要な10の目標を確認しました。これらはWHO手術安全チェックリストの中に編集され、2009年「WHO手術安全チェックリスト」として、多くの国で使用されています。（参考資料：日本麻酔科学会HP（www.anesth.or.jp） WHO 安全な手術のためのガイドライン 2009）

手術安全チェックリストは、コミュニケーションツールです。チェックリストにチェックを入れることが目的ではなく、チーム全体で情報交換をし、情報の共有を図るツールです。そのため、各施設で使用しやすいようにしても良いとされています。手術安全チェックリストの内容を、必要以上に削減することや、また多く内容を追加することはあまり望ましくありません。日本手術看護学会では、項目に沿った実施を推奨します。手術安全チェックリストを、不完全に行うことは有害事象の減少には繋がらず、完全に行うことが有害事象の減少に繋がるとされているからです。

日本手術看護学会では、手術患者・医療従事者の安全を守るツールとして、このWHO手術安全チェックリストの使用を推奨します。

あなたの手術室内で、まだ使用していないようであれば、ぜひ実施に向けて行動しましょう。